

女性活躍の推進に関する実践

指導教員	金城大学	助教	齊藤実祥		
		准教授	平子紘平		
	金沢大学	特任教授	寒河江雅彦		
参加学生	金沢大学				
	大学院	小竹由夏			
	4年	岩脇芽生	松本莉奈	吉尾知佐子	

女性活躍の推進に関する実践

齊藤実祥※¹ 平子紘平※¹ 寒河江雅彦※²
小竹由夏※³ 岩脇芽生※⁴ 松本莉奈※⁴ 吉尾知佐子※⁴

※¹ 金城大学総合経済学部

※² 金沢大学融合研究域

※³ 金沢大学大学院人間社会環境研究科

※⁴ 金沢大学経済学類

令和6年度実施

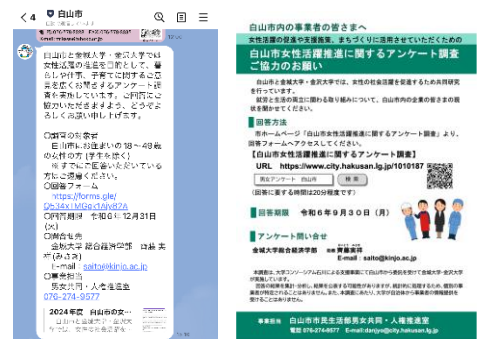
①活動の目的

白山市は「住みよさランキング2023」で全国5位と、優れた生活環境を有する地方都市である。近年は若い子育て世帯の白山市への転入が多く、人口面から自然増と社会増のバランスの取れた人口政策が重要な課題となる。そこで、同市では生活環境の整備と向上、市内企業では働き方の多様性や支援の充実が求められる。しかしながら、昨年度の「女性活躍の推進に関する調査」で、共働き率の高さに反する家事・育児の女性への偏りが分かった。昨年度から引き続き、3年計画で実態調査、具体的施策の提案、施策の社会実装を目指す。本年度は、女性市民の生活面・仕事面・子育て面の問題や要望を既存統計資料の整理、市民向けと企業向け調査で多角的に深掘りする。

②活動内容

女性の労働や昇進への意欲に関する実態や、企業が女性活躍を推進するために苦労していること、工夫していることを明らかにしたいといった課題が白山市から挙げられた。そこで、昨年度から継続して既存の統計資料から情報の抽出と女性向けのアンケート調査を行った。加えて、新たに企業向けアンケート調査を行った。また、女性と企業が抱える課題やニーズを深く掘り下げるため、それぞれに対してのヒアリング調査を進めている。

(下図：市民・企業向けアンケート調査)



③活動成果

女性向け・企業向けアンケートと女性向けヒアリング調査の結果から、一部抜粋して記載する。分析結果から、白山市において女性活躍を更に推進するうえで解消すべき3つの問題点が明らかになった。

①家庭における家事・育児役割の女性側への偏り

市民向けアンケートの結果から、共働き率が90.7%であるものの、女性市民の多くはフルタイムでの労働に加えて、家庭での家事・育児で1日の大半を費やし、自身の余暇や睡眠時間等が十分に取れない状態であると考えられる。

②労働時間と労働形態の柔軟性の低さ

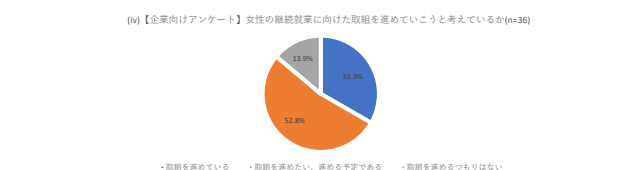
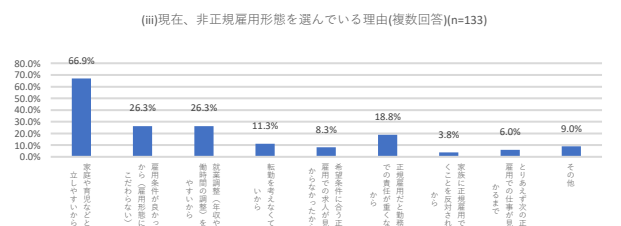
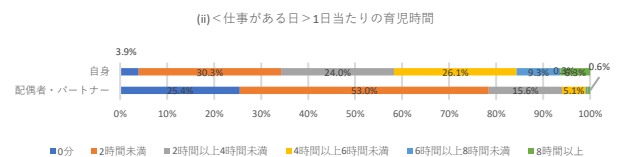
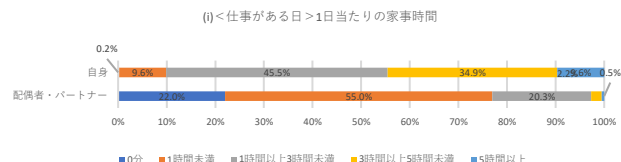
女性向けアンケートの結果から、回答者自身のうち非正規雇用は30.7%で、配偶者・パートナーは1.7%であった。非正規雇用の理由は「家事や育児と両立しやすいから」が66.9%で最も高い。つまり、仕事と生活の両立のため非正規雇用を選択している女性が一定数おり、正規雇用のまま柔軟な働き方による両立は難しいことが示唆される。

③各ライフステージでの社会で働く女性のロールモデル不足

企業向けアンケートの結果から、平均勤続年数は男性が13.7年、女性が11.3年である。企業の86.1%が女性の継続就業への取組に前向きである。一方で、女性が結婚・出産等といったライフイベントをきっかけに一時的に離職又は転職するケースが未だ見られる。この理由の一つは、家庭・育児と仕事を両立している女性のロールモデル等が不足しており、両立への不安が払拭できないことが挙げられる。

④今後の展望

今後は本活動の分析結果から明らかになった問題点の解消に向けて、継続したより精緻な調査分析及び施策の提案を進めていきたい。例えば、成果の自治体へのフィードバック、白山市独自の施策提案、大学と企業連携でのリスクリング機会の創出である。



1. 活動の要約

今年度の活動では、昨年度の「女性活躍の推進に関する調査」で共働き率の高さに反する家庭内における家事・育児時間の女性への偏り等が明らかになったことを踏まえて、白山市に住む女性の生活面・仕事面・子育て面に関する実態を更に深く調査した。昨年度からの継続で既存統計分析と市民向けアンケート調査を行った。また、新規で企業向けアンケート調査と、女性・企業向けヒアリング調査を実施した。調査結果から白山市において女性活躍を推進するうえでの課題を明らかにし、その解消に向けた施策の提案につなげる。

2. 活動の目的

白山市は「住みよさランキング 2023」で全国 5 位と、優れた生活環境を有している。近年は若い子育て世帯の白山市への転入が多く、これら人口の維持・増加が重要な課題となる。そこで、自治体では生活環境の整備と向上、市内企業では働き方の多様性や支援の充実が要求される。しかしながら、昨年度の「女性活躍の推進に関する調査」で、共働き率の高さに反する家事・育児時間の女性への偏り等が分かった。昨年度から引き続き、3 年計画で実態調査、具体的施策の提案、施策の社会実装を目指す。本年度は、女性の生活面・仕事面・子育て面の問題や要望を既存統計の分析、市民向けと企業向けの調査で多角的に深掘りする。

3. 活動の内容

白山市の関係部局との打ち合わせにおいて、女性の労働や昇進への意欲に関する実態や、企業が女性活躍を推進するために感じている課題や工夫していることを明らかにしたいことが挙げられた。そこで、昨年度から継続して既存統計資料の分析と女性向けアンケート調査を行った。加えて、新たに企業向けアンケート調査を行った。また、女性と企業が抱える共通の課題やニーズを深く掘り下げるため、女性と企業それぞれに対してのヒアリング調査を進めている。2 月末～3 月ごろ(予定)に報告会を実施し、女性活躍推進に関わる市民・企業の実態及び問題点を整理し、白山市へフィードバックする。

4. 活動の成果

女性向け及び企業向けアンケートと女性向けヒアリング調査の結果から、一部抜粋して活動の成果を記載する。調査結果の分析から、白山市において女性活躍を更に推進するうえで解消すべき 3 つの問題点が明らかになった。

- ①家庭における家事・育児役割の女性側への偏り
- ②労働時間と労働形態の柔軟性の低さ
- ③各ライフステージ^{*1}での社会で働く女性のロールモデル不足

①家庭における家事・育児役割の女性側への偏り

女性向けアンケートの結果から、共働き率は 90.7%であり、全国の 68.5%(総務省「2020 年度労働力調査」)を大きく上回っている。回答者の 1 日当りの実労働時間(希望時間と実際の時間)を見ると、希望時間では割合が高い順に「6 時間以上 8 時間未満」が 53.1%、「4 時間以上 6 時間未満」が 30.0%、「8 時間以上」が 11.2%である。実際の時間では割合が高い順に「6 時間以上 8 時間未満」が 46.6%、「8 時間以上」が 34.7%、「4 時間以上 6 時間未満」が 15.4%で、希望時間よりも長く働いている者が多い

^{*1} 本報告でライフステージとは、女性の大きなライフイベントとして結婚、出産・育児、配偶者・パートナーの移動に伴う転勤・離職が主なものである。

(図1)。回答者と配偶者・パートナーとの1日当りの家事時間を比較すると、1時間以上である割合が回答者自身は90.0%、配偶者・パートナーは23.0%である(図2)。1日当りの育児時間では、2時間以上である割合が回答者自身は65.7%、配偶者・パートナーは21.6%である(図3)。また、育児休暇の取得状況について、回答者自身の73.2%が休暇取得しているのに対して、配偶者・パートナーでは25.7%の取得率に留まる(図4)。したがって、家庭での家事と育児の役割が女性側に偏っており、女性の多くはおおよそフルタイムでの労働に加えて、家庭での家事と育児で1日の大半を費やし、自身の余暇や睡眠時間等が十分に取れない状態であると考えられる。

図1：1日当たりの実労働時間(希望時間と実際の時間)

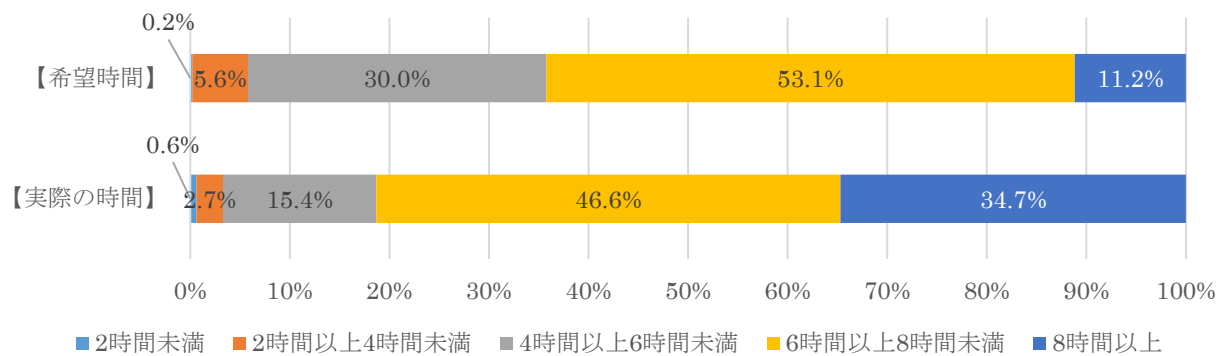


図2：＜仕事がある日＞1日当たりの家事時間

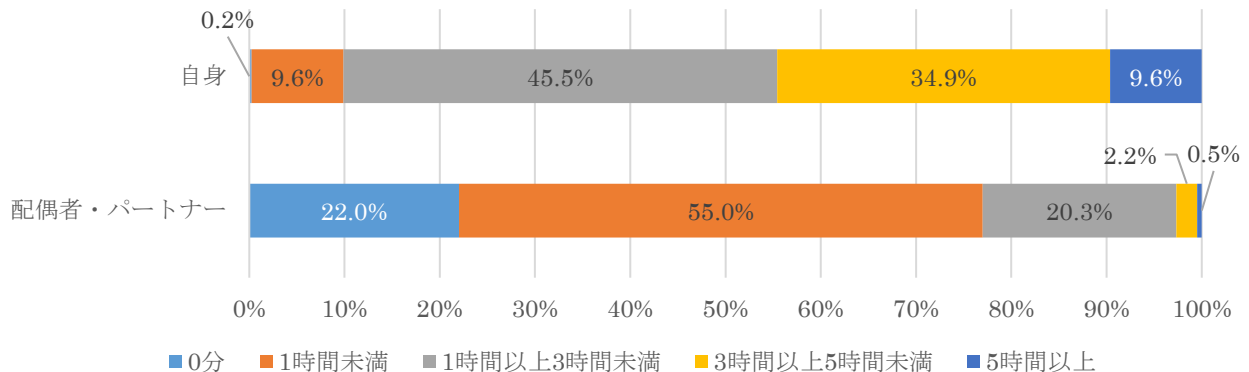


図3：＜仕事がある日＞1日当たりの育児時間

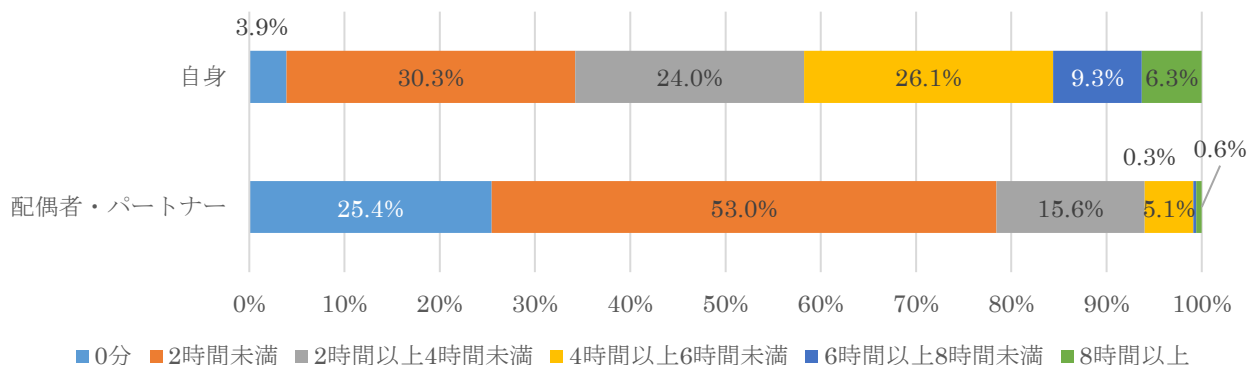
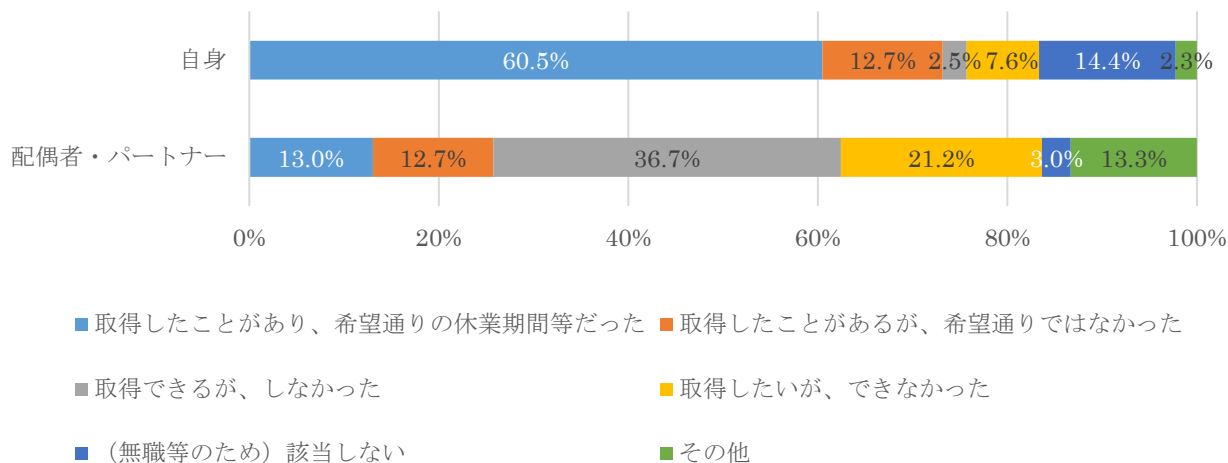


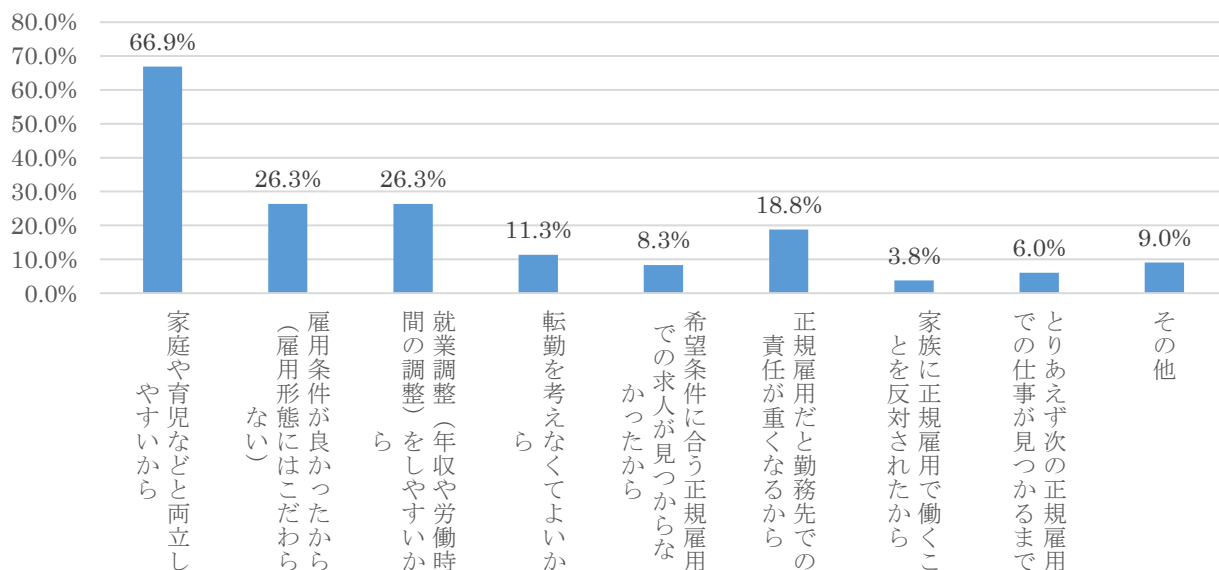
図4：育児休暇の取得状況



②労働時間と労働形態の柔軟性の低さ

女性向けアンケートの結果から、非正規雇用(契約社員、嘱託社員、派遣社員、パート・アルバイト)の割合が回答者自身は 30.7%で、配偶者・パートナーは 1.7%であった。非正規雇用である回答者について、現在の雇用形態を選んだ理由では「家事や育児などと両立しやすいから」が 66.9%で最も高い(図 5)。つまり、労働と家事・育児の両立を目的として非正規雇用を選択している女性が一定数いると考えられる。企業でテレワーク勤務や時間短縮勤務等を制度として設けていても形骸化している場合があり、正規雇用では柔軟な働き方が未成熟で家庭との両立は難しいことが示唆される。

図5：現在、非正規雇用形態を選んでいる理由
(複数回答可)(n=133)

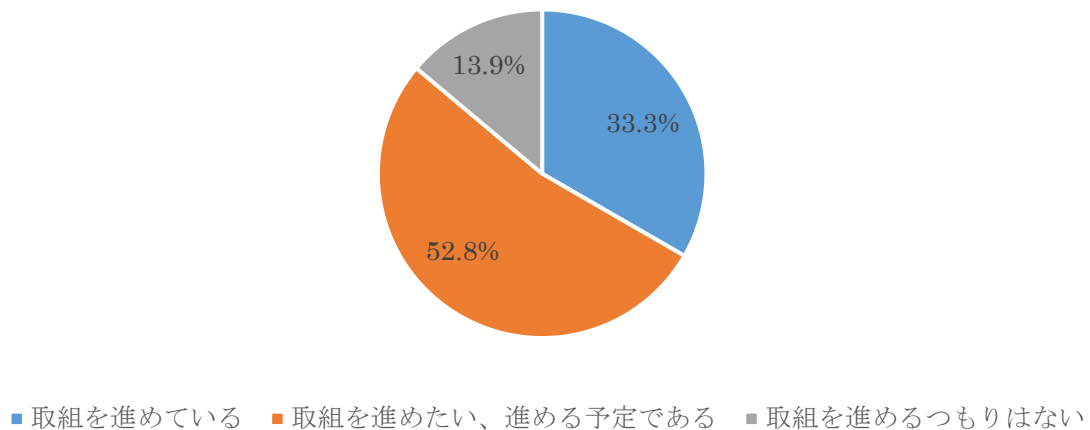


③各ライフステージでの社会で働く女性のロールモデル不足

企業向けアンケートの結果から、平均勤続年数は男性が 13.7 年、女性が 11.3 年であり、女性のほうが 2 年ほど短かった。女性の継続就業に向けては、86.1%が取組を進めている又は進める予定である

(図 6)。女性の継続就業に前向きな企業は多いものの、女性が結婚・出産等といったライフイベントをきっかけに一時的に離職又は転職するケースは未だ見られる。この理由の一つには、家庭・育児と仕事の両立をしている女性のロールモデル等が不足しており、両立への不安が払拭できないことが挙げられる。多くの場合、仕事から離れることでキャリアは一度リセットされ、その後の給与面・スキル面で不利になる。加えて、地方都市においてはスキルアップやリスキリングによるキャリアアップの機会が少ないことが問題である。

図6：【企業向けアンケート】女性の継続就業に向けた取組を進めていこうと考えているか(n=36)



5. 今後の活動計画

今回の活動におけるアンケートとヒアリング調査結果から明らかになった3つの問題点①家庭における家事・育児役割の女性側への偏り、②労働時間と労働形態の柔軟性の低さ、③各ライフステージでの社会で働く女性のロールモデル不足の解消に向けて、自治体に対してより正確な実態把握のための調査及び施策の提案を行う予定である。具体的には以下の通りである。

- ・実態調査結果の白山市民・企業へのフィードバック
- ・他自治体での成功モデルを基にした女性活躍推進のための白山市独自の施策提案
- ・大学と企業の連携によるスキルアップ・リスキリング機会の創出

6. 活動に対する地域からの評価

女性・企業向けアンケート調査の自由回答やヒアリング調査で寄せられた女性や企業の声を一部抜粋・編集して掲載する。

- ・白山市は子どもの医療費が18歳まで無料で、自然の豊かさと買い物等での高い利便性の両方が揃っているなど、育児・生活するための環境が整っている。
- ・生活と就労環境の整備(子どもの遊び場や病児保育の充実、女性の就労環境を改善するための企業への啓蒙活動等)を更に進めていくことと、市民への積極的な情報発信を白山市に期待している。